



ZPO法人速川活性化協議会では、速川地区で栽培したサツマイモを原料にしたオリジナル芋焼酎「白が峰」を発表しました。速川地区で育てたサツマイモ「黄金千貫(こがねせんがん)」

あけましておめでとうございします。氷見に来て初めての冬を迎えました。朝の突き刺すような空気で布団から出るのに勇気がいらいます。漁師さんにお世話になっており、漁業の現場を間近で見させてもらっています。東京にいた頃は魚を食べているときも、その向こう側にこうした漁業の姿は想像できずにいました。都市部では生産することのできない水産資源を供給してくれていることに対する感謝もあまり感じていなかったように思います。やはり生産者と消費者、地方と都市のあいだにはまだまだ大きな壁があるように感じます。僕は移住してきたものとして、自然と人間の営みをすぐそばで感じられる喜びを感じながら、地方と都市、生産者と消費者交流がより一層広がるよう今年も努力していきたいと思っています。(左座)

さわだ のりひさ
澤田 典久

着任当初から携わっている市の空き家活用まちづくり事業もようやく一段落を迎えようとしています。今回の調査は対象に限られたものでしたが、そのエリアのほぼすべてを歩き、少ないながらもそこに住むひとたちの声を聴くことができました。ある地区で、大火の際自分の家のちよつと真ん中で火が消えたそうです。実際に見せていただくと柱の半分が黒く焦げているものの、しっかりとそこに立っていました。氷見のまちなかには、大火で多くの形あるものが失われました。もしか

を福岡県八女市の後藤酒造にて醸造し、地域の期待を背負った商品です。「非常に薫り高く、かつ、スツキリと喉を潤す清涼感」の飲み味となっております。現在3000本の限定商品として販売しておりますが、品薄の状態が続いており大変ご迷惑をおかけしております。ご注文はZPO法人速川活性化協議会酒販部 ☎080-5851-1200まで。



速川地区のさつまいもを使って作った
本格芋焼酎「白が峰」

ふじた ともひこ
藤田 智彦



獲れたての魚で作る大漁鍋

氷見では毎日のように美味しいものと出会えます。中でも一番よく食べているのは大漁鍋。その日獲れた値段の安い魚を漁師さんが持ち帰り番屋で食べる朝ごはんです。入れる種類が多いほどうまいそうです。ある漁師さんが高級魚よりもよっぽどうまいと言っていたのが印象的でした。寒い日はこれであつたまりたいと思います

するとその陰にはしっかりと残るなにかが他にもたくさん眠っているのではないのでしょうか。こんな光景が、そしてその挿話を物語るひとがたくさんいるのなら、それはとても豊かな地域なのだと思います。



空家実地調査の様子

さざ しんすけ
左座 進介

本年もよろしく願いたします



■1月10日に行われる氷見市成人式「新成人のごとし」にて映像演出をする機会をいただきました。ふれあいスポーツセンターメイソアリーナの構造を活かした作品を上映する予定です。新成人の皆様、晴れ舞台を存分に祝福できるよう、全力を尽くす覚悟でまいります。また宮田小学校100周年記念事業にて、過去に撮影された8mmフィルムやスライドプロジェクターなどの貴重な記録を活用し地域住民の方にも楽しんでいただけるような企画を現在検討中です。今後も様々な形で映像をご披露する機会があると思しますので、何卒宜しくお願い致します。(漁業文化発信担当 釜石)

■現在進めている中心市街地での空き家調査については、これまで各町内会長・自治振興委員の皆様からお伺いした空き家情報を元に、各空き家物件の持ち主の方へ向けて意向アンケートを取り、空き家の活用へ向けたいをお願いをしていく予定です。また、比美町町内で軒耐震改修を含めた町家の改修を行い、氷見らしい住宅をいかに残していくかという取組を具体的に進めていきます。まちづくりバンクでの空き家についての相談にも、市職員の方達と連携しながら応えていきますので、なにかあればご連絡ください。(まちづくり担当 山下)

■前回企画したイベント『サツマイモ掘りと新米で食べる田舎のど馳走』では、七尾市や富山市などからの参加者23名も集まり、参加者からは大好評を戴きました。また、参加者へプレゼントした黄金千貫が、市内の小学校のお茶会のお茶菓子になり、マスコミにも取り上げられるという嬉しい広がりもありました。前回のイベントでの経験を活かしながら、次回、2月に床鍋地区の薫細工の文化継承をするためのワークショップ(作業体験)では、参加者や受入側の地域のおもてなし力をさらに高め、氷見に残る大切な民芸品を次世代に残す仕組みづくりを地域の方々と一緒に考えて、実行していく予定です。(農業六次産業化担当 稲垣)

今後の活動予定